

## ◆ 世田谷都税事務所長賞 ◆

「保育士から学ぶ税金のあり方」

恵泉女学園中学校 3年 石田 麻桜

私は夏休み、職業体験として保育園に伺った。ある本を読んだことで、以前から少し興味のあった職業だったため3日間という少ない日数でも保育士として勤めることができるのは嬉しかった。いざ働いてみると、大変なことばかりだった。少し目を離すとおもちゃを口に入れてしまったりするし、喧嘩もすぐに始まってしまう。お昼寝の時は少しゆっくり出来ると思ったが、寝てくれないと意味はない。寝かしつけるのにも一苦労だった。もちろん大変なことだけではなく、絵本を読んであげたり、歌を歌ったりするのは楽しいし、何より園児がかわいかった。ただ、この仕事を自分の職業とし、毎日園児と関われるかと言われると難しいとも思った。私が休憩を取らせてもらっている間も、パソコンでの作業をやったり日記帳を書いたりと子供の面倒を見るという仕事以外にも保育士には沢山の仕事がある。私は休憩から上がったあと子供たちが遊べるように画用紙やテープを切る仕事を任された。普段はこれも保育士の皆さんがやっているのだろう。保育士なんて誰でも出来ると言っている人を見たことがある。私は絶対にそんなことは無いと思う。保育士というのはただ単に子供の面倒を見るだけの仕事では無いのだ。事務作業や保護者の対応、ピアノや絵の才能も必要になってくる。最近保育園、幼稚園で虐待が起こったというニュースを見ることも多い。このように保育士とは誰でもなれる仕事ではないのだ。しかしこんなに大変な仕事なのに保育士の給料が少ないというのもまた事実である。調べてみると保育士の平均年収は382万円であった。日本人の平均年収が443万円であることからこの数字は少ないと言える。保育士は公務員であるため、保育士の給料は税金、または保護者からの保育料で賄われている。保育士の給料が低いのは、公定価格による収入変動が少ないことがあるようだ。公定価格とは政府によって決定される価格、保育園で言うと保育園を運営するためにあたって必要であると政府が定めた費用のことである。この額が変わらなると保育士の給料も変わらないままなのである。つまり保育士の給料が低いのはこの公定価格が低いからと言える。これを高くするには国民一人一人が税金を知り、今よりもっと正しい税金の使い道を開拓する必要があると思う。私はこれまで税金についてなんの興味も示してこなかった。払いたくないと思ったこともないほどだ。しかし保育士という大変な仕事を経験し、またその給料が低いことを知ってから税金によって人は生かされているのではないかと思った。もちろん税金がなければ保育士という職業は成り立たない。その他にも学校の先生や警察官など、公務員の存在によって私は今生きているのだ。私たちは税金の使い道をもっと知り、公務員の方がより働きやすい環境を作ることが必要である。